



## 【研究報告】 日本炭化学会誌における原稿執筆の手引き

上方二郎\* \*\*\*, 薩摩三司\*  
その他壱\*\*, その他弐\*\*

概要：日本炭化学会誌へ投稿する場合は「日本炭化学会誌，原稿執筆の手引き」に従って作成してください。投稿者は原則として日本炭化学会会員に限ります。連名の場合には筆頭者が会員であることが必要です。ただし，編集委員会が認めた場合，または編集委員会が依頼した場合にはこの限りではありません。

1 行

キーワード：投稿，総説，研究報告，ノート，技術報告

1 行

Journal of the Japan Carbonization Research:  
Instructions for the preparation of a two-column format paper

1 行

Jiro Kamigata\* \*\*\*, Sanji Satsuma\*\*,  
Ichi Sonota\*\*\*, Ni Sonota\*\*

1 行

Abstract: These pages provide you with an example of the layout and style during the preparation of your article in “Journal of the Carbonization Research”.

1 行

Keywords: typeset journal article, review, original article, note, technical report

1 行

### ← 20 mm 1. はじめに

日本炭化学会誌（Journal of the Japan Carbonization Research）は，投稿規定および執筆要領が定められています。本手引きは，これに従い Microsoft 社の Word（Windows 版）で原稿を作成し出力することを目的としました。次節から投稿規定をどのように実装したかということを中心に述べます。なお，投稿原稿は和文の「研究報告」を例としました。ノートなど他の和文原稿に関しては，これを参考にしてください。

1 行

### 2. 題目など

ここでは，題目，著者，著者所属，概要，キーワ

ードについて述べます。

### 2.1 題目

和文および英文の題目が必要です。和文題目は 14 ポイントの「ゴシック（太）」で記述します。英文題目は 12 ポイントの「明朝（太）」で記述します。

### 2.2 著者

和文および英文の著者名が必要です。和文著者名は 12 ポイントの「ゴシック（太）」で，英文著者名は 12 ポイントの「明朝（太）」で記述します。英文著者名は，名姓の順とし，それぞれ先頭の文字のみを大文字にしてください。

### 2.3 著者所属

和文および英文の著者所属が必要です。記載には，



20 mm

\* 株式会社 関西 Kansai Co., Ltd.

\*\* 能代山本大学炭化学科 Dep. of Carbonization, Noshiroyamamoto Univ.

\*\*\* 連絡先：〒016-0123 秋田県能代市山中 105-26 e-mail: kamigata@kansai.jp

Corresponding author: 105-26 Yamanaka Noshiro-city, Akita 016-0123, Japan



該当著者の右肩に半角アスタリスク (\*) で\* \*\*などをつけ、第1頁下に脚注として記載してください。

論文に関する連絡先の著者は、住所と e-mail アドレスの記載が必要です。

使用するフォントとサイズは、8 ポイントの「明朝」です。

## 2.4 概要

論文の内容を簡潔にまとめた和文概要と英文概要 (Abstract) が必要です。和文概要は9ポイントの「明朝」で、英文概要も9ポイントの「明朝」で記述します。英文概要は200語以内とします。

## 2.5 キーワード

論文の内容を表す和文キーワードと英文キーワードを5語以内で記載してください。

和文キーワードと英文キーワードは9ポイントの「明朝」で記述します。

### 1 行

## 3. 本文

和文原稿の文章は口語体とし、特に英文もしくはカタカナ書きを必要とする部分以外は、現代かなづかいによる漢字かなまじり文としてください。外国の固有名詞は原則として原語綴りとしませんが、ポアソン比など、一般的に使われている場合にはカタカナ書きとします。

丸括弧「()」、鉤括弧「[]」、中黒「・」などの約物を本文中で用いる場合には、全角とします。但し、文献の引用では、アラビア数字を用いることから半角終わり丸括弧「」を用います。

本文中で温度を示す場合に 20℃などと表記しま

すが、「℃」は全角の文字を使用して下さい。数字と℃の間にはスペースを空けないで下さい。百分率を表す「%」も同様に全角文字とし、65%のように記述して下さい。これ以外で、単位を表す場合には、100 cm, 45 kg, 50 m<sup>2</sup> など数字と単位の間には半角のスペースを空けます。但し、50 年や1,000 円など全角文字で単位が表される場合には半角スペースを空けないで下さい。

本文のフォントとサイズは、原則10ポイントの「明朝」です。また、片段の文字数は23字、行数は41行とします。

## 3.1 見出し

既に本手引き中で用いてますが、本文の区分けはポイントシステムによる記号を用いて下さい。

節見出しは「1., 2., …」、小節見出しは「1.1, 1.2, …」、小々節見出し「1.1.1, 1.1.2, …」などとしてください。

見出しのフォントとサイズは10ポイントの「ゴシック」です。

## 3.2 文章の区切り

原則として、文章の区切りには読点「。」を、句の区切りには句点「,」を用いてください。なお、各段落の最初は1字分をあけてください。

また、引用文献では著者名を区切る際などに「,」（半角カンマ）を使いますが、本文中の句点「,」（全角カンマ）とは区別していますので注意してください。

## 3.3 数値・単位

単位は原則として国際単位系 (SI) を用い、数値はアラビア数字を使用してください。

## 3.4 図・表

図、表は白黒での印刷を原則とします。刷り上がり が鮮明になるように作成下さい。図・表の割付はページ上端あるいは下端とし、カラム内に本文中で挟み込まないようにして下さい。また、表には原則として縦罫線を用いないようにして下さい。以下に、番号、見出し、本文中での引用、サイズについて述べます。

### 3.4.1 番号

図、表の番号は、それぞれ、図 1, 図 2, 表 1, 表 2 などと通し番号で記述して下さい。Fig. 1,

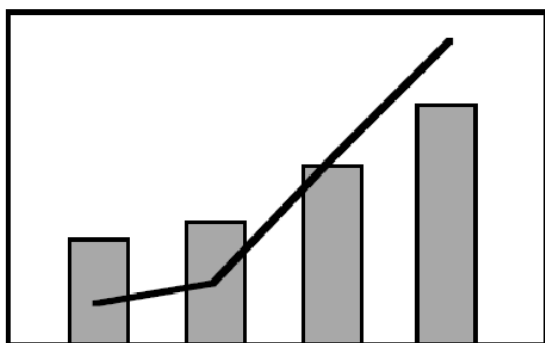


図 1 A と B の関係

表 1 論文作成時のフォント設定

項目	フォント	スタイル	大きさ (ポイント)
和文題目	ゴシック	太字	14
和文著者	ゴシック	太字	12
和文概要・和文キーワード	明朝	ノーマル	9
英文題目・英文著者	明朝	太字	12
英文概要・英文キーワード	明朝	太字	9
所属等の脚注	緊張	ノーマル	8
本文	明朝	ノーマル	10
見出し	ゴシック	ノーマル	10
図・表のキャプション	ゴシック	ノーマル	9
文献	明朝	ノーマル	10

Fig. 2, Table 1, Table 2 のように表記してもかまいません。

### 3.4.2 見出し

図の場合にはその下に、表の場合にはその上に、番号とともに見出しを入れてください。図、表の番号に和文を用いた場合には日本語の見出し、英語を用いた場合には英文の見出しとします。

見出しに用いるフォントとサイズは、9 ポイントの「ゴシック」です。

### 3.4.3 本文中での引用

本文中で図、表を引用する場合には、図 1, 図 2, 表 1, 表 2, とします。英文で見出しを入れた場合にも、本文中の引用は同様としてください。

### 3.4.4 サイズ

図、表の刷り上がり寸法は、横幅 8 cm 以内 (片段) と横幅 17 cm 以内 (両段) の二通りとします。図や表中の文字は適切な大きさで、本文との整合性に注意して作成ください。

## 1 行

## 4. 文献

本文中に引用した文献について述べます。

### 4.1 引用

参考文献の引用は、引用箇所<sup>1) 1,2)</sup>などと半角のアラビア数字を使ってつけてください。終わり丸括弧は半角の「)」を用います。

### 4.1 文献の記載

引用文献は本文の末尾にまとめてください。雑誌の場合は、著者名、発行西暦年、雑誌名 (略記にて可)、巻、号、ページを、書籍の場合には、著者 (ま

たは編者) 名、発行西暦年、書名 (編者)、発行所 (発行地)、ページの順に記載してください。各項目は半角カンマ「,」で区切り、発行西暦年などを囲む場合には半角丸括弧「()」を使ってください。著者 (または編者) 名は、姓名を半角カンマ「,」で区切って記載してください。著者が多い場合でも省略せずに、すべての著者名を列挙してください。英文の場合には、「姓 名のイニシャル。」の羅列とし、半角カンマ「,」で区切ってください。雑誌の巻は和文誌、英文誌ともに「太字」にして下さい。また、英文誌の場合には雑誌名を「斜体」として下さい。

以下に記載例を示します。

## 1 行

## 文献

- 1) 谷田貝光克, 雲林院源治, 杉浦銀治 (1986) 木材学会誌, **32**(6), 467-471
- 2) Faix O., Meier D., Fortmann I. (1990) *Holz als Roh- und Werkstoff*, **48**, 281-285
- 3) 鈴木勉, 光岡喜彦, 王暁水, 山田哲夫 (2002) 第 52 回日本木材学会大会研究発表要旨集 (岐阜), pp. 436
- 4) Mihara R., Mitsunaga T. (2003) Proceedings of 12th International Symposium of Wood and Pulping Chemistry (Madison), pp. 277-280.
- 5) 岸本定吉 (1976) 炭, 丸の内出版 (東京), pp. 28-46
- 6) 森林総合研究所監修 (2004) 木材工業ハンドブック改訂第 4 版, 丸善 (東京), pp. 1007-1032
- 7) Tyman J.H.P. (1991) *Studies in Natural*

- Products Chemistry (Rahman, A.-u. ed),  
Elsevier (Amsterdam), pp.313-381
- 8) 木田炭男 (1989) 特開昭 64-1234
- 9) Morita S. (2010) U.S. Patent 987654
- 10) 林育子 (2002) 博士学位論文 (農学), 弥生大学